

# 第7回日本語体験コンテスト in 上海 実施報告書



**開催日時** 2009年10月18日(日) 9:00~16:30  
**場所** 中華人民共和国上海市 甘泉外国語中学校講堂  
**主催** 財団法人 共立国際交流奨学財団  
K.I.F. 東京本部・上海委託事務所  
**後援** 文部科学省  
 在上海日本国総領事館  
**協賛** ANA 全日本空輸株式会社 上海支店  
 株式会社 共立メンテナンス

## ＜実施概要＞

中華人民共和国の上海市において日本語学習者を対象に「第7回日本語体験コンテスト in 上海」を開催致しました。

同コンテストは、予選会〔日本語聞き取り試験〕、本選会〔日本語スピーチコンテスト〕を行う内容で、参加者は147名(大学生72名、高校生75名)が出場しました。

今回のコンテストの予選会では、日本の政治、経済、文化、文学、社会、地理に関する選択式の聴き取り問題30問が出題され、22名が予選を通過し、本選会のスピーチコンテストに進みました。予選問題は、日本の政治、経済を問うものから文化風習等に関する問題まで幅広く出題され、単に日本語を勉強している人には少々難しかったようです。

本選会では、スピーチ課題として「日本に紹介したい上海の観光地や商品、言葉」という課題を出され、3分間の即興スピーチを行ってもらいました。審査委員5名による審査の結果、8名が選ばれ、入賞認定書と賞品を授与されました。

入賞者には、2009年2月1日から2月6日(5泊6日間)の共立賞「日本体験旅行」(無料招待)が贈られます。この賞品旅行で、日本の学校見学、研修観光等のプログラムを通し、日本の文化、自然、教育環境に触れ、日本に対する理解をさらに深めていただきたいと思います。

このコンテストは今年で7回目を迎えました。参加者は上海市だけに限らず、江蘇省等の高校と大学からも来ました。また、コンテストの盛況の様子が日本のテレビ局4ch日テレの10月19日早朝の「NNNニュース」にも取り上げられました。

## ★ 共立賞『日本体験旅行』入賞者氏名 ★

	氏 名		学 校 名
1	全 程	ゼン テイ	南京外国語学校
2	江 茜	コウ セン	南京外国語学校
3	李 琴	リ キン	上海外国語大学附中
4	朱 奕欣	シュ エキキン	上海市甘泉外国語中学
5	季 轶雯	キ イツブン	上海交通大学
6	华 萍	カ ヘイ	江蘇省南通大学
7	刘 醇	リュウ ジュン	上海外国語大学
8	张 佳瑜	チョウ カユ	同济大学

## 【日 程】

予選会	9:00～	開会の辞・注意事項説明
	9:10～9:40	予選会(高校生・大学生)
本選会	13:30～	開会の辞、予選通過者発表
	13:35～	審査委員紹介
	13:40～	注意事項説明、スピーチ準備
	13:45～14:00	シンキングタイム
	14:00～15:30	スピーチコンテスト開始
表彰式	16:30	奨励賞発表 共立賞「日本体験旅行」発表

### 午前の部 <予選会>



会場前



まずは受付



予選会開始！



予選会の様子・・・

### 午後の部 <本選会>



学生スピーチの様子



来賓の方々

### 午後の部 <表彰式>



劉所長の挨拶



奨励賞受賞者

今年度賞品は村上春樹著「1Q84」



共立賞受賞者記念撮影

賞品は「日本体験旅行 5泊6日」

## 【審査委員講評】

### ◆ 佐井浩然（財団法人 共立国際交流奨学財団 教育事業部部长）



「第7回日本語体験コンテスト in 上海」講評

財団法人 共立国際交流奨学財団  
佐井 浩然

「日本語体験コンテスト in 上海」は今年で第7回を迎え、例年と同じく実りある盛況で幕を閉じることができました。ご尽力頂いた関係者の皆様に感謝の意を申し上げます。

今回のコンテストには、上海市だけではなく、南京、南通からも大勢の日本語を勉強している高校生と大学生が参加しました。予選会では、日本語と日本社会・経済・文化風習に関する問題を30問課し、22名の学生が一次予選を通過して、本選会に出場となりました。本選会では、「日本に紹介したい中国・上海の言葉、観光地や商品」という題が出され、15分間で自らの考えをまとめて発表してもらいました。発表者の多くは課題を正確に把握し、素晴らしいスピーチを聞かせてくれました。学生の日本語表現力とスピーチ能力の高さに驚嘆しました。誰を入賞者にするかは、採点には本当に苦労しましたが、最終的には8名の学生が入賞しました。

全体的に見ると、文法と文章力においては大学生のほう为数段上ですが、発想力と表現力においては高校生のほうが優れていました。いずれにしても、短時間で自分の考えをまとめ、大勢の前でスピーチできる力に改めて目をみはられるものです。

回を重ね、参加学生、参加学校が増加し、嬉しい限りですが、その分、この日本語体験コンテストの意義、役割を考え身の引き締まると思います。これからも日本を理解し、日本文化を勉強する学生が増え続けることを期待しております。

### ◆ 赤山小雪（日新アカデミー日本語学校教員）



今回はじめてこの日本語スピーチコンテストに参加させていただきましたが、規模の大きさや参加者のレベルの高さには驚きました。

まず、予選会の日本に関する問題ですが、ごく最近の話題から地理・歴史まで、本当によく日本のことを知っている人が多く、とてもレベルの高い戦いになりました。

予選会では日本についての知識を問いましたが、本選会では学生の皆さんの国である中国について3つのテーマから選んでスピーチしてもらいました。中国あるいは上海について、学生の皆さんが知っていることは政治経済からおいしい点心のお店までたくさんあることと思います。限られた時間の中で、それら雑多な知識を整理して3分間で伝えるのは決して簡単ではないでしょう。またそれだけに、学生の皆さんが日頃考えていることや興味のあることがよく表れていたと思います。

しかし、1つ気になったのは、いいスピーチとはただ思っていることを意味がわかるように話すことなのか、ということです。言葉は文法や意味があってはじめて理解できますから、もちろんそれも大切なことですが、それだけでは不十分だと思います。話す人と聞く人、相手がいるからこそその言葉です。どんなテーマについて話すにせよ、聞いている人の反応をよく想像してほしいと思います。1対1で話すときは当然のように相手の反応を見ながら、気持ちを共有できるように努力するのに、スピーチのように相手が多人数になった途端、そうした努力をしなくなるとしたらとても惜しいことです。ただ、会話に限らず、作文でも、スピーチでも、伝えたい相手に働きかけていく姿勢を忘れないでほしいと思います。

そうとはいえ、学生の皆さんの頑張り、また外国にいながら高いレベルの日本語を習得していることには感心しました。日本国内で教える立場の者として、今回の体験はいつまでも心に残るものになりました。

### ◆ 張 国強（中国教育学会外語教学專業委員会秘書長）



日本語体験コンテストと日本語教育

「第7回日本語体験コンテスト in 上海」は2009年10月18日、甘泉外国語中学校で行われ、審査委員による審査後、8名の入賞者（高校生4名、大学生4名）を決定しました。日本に行ったことのない8名の日本語学習者は、涙の出るほどうれいでしょう。入賞者は、「努力して花を咲かせた」「日本語の表現力が高まった」「勇気を持って大勢の人の前で発表することができてたいへんうれしかった」「来年の2月、自分の目で隣の島国の日本を見て、感じるができるので、一生の美しい思い出になる」「日本で日本語を生かそうなどと、心の奥にいろいろな感想を描いているでしょう。

相手の国の言葉を習っている若者にとっては、相手の国の社会事情・文化・生活様式・発想などを理解することは何よりも大事なことで、と思います。なぜかという、言葉は生活からきたものだからです。



「他人の恩恵を忘れてはいけない」という意識があつてからこそ、日本人はよく「ありがとうございます」「先日ありがとうございました」と、感謝の言葉を述べるという例があげられます。

入賞者の初めての5泊6日の日本旅行は、短いですが、入賞者の日本語学習欲の刺激、日本への理解、中日両国人民の友情を強めることなどに必ず役立つと、わたしは深く信じます。

今度のコンテストのテーマは、①私が日本に紹介したい中国・上海の観光地は……、②わたしが日本で売れると思う中国・上海の商品は……、③私が日本人に教えたい中国・上海の言葉は……、の三つですが、私の統計によると、22人の中約7割の発表者は③を選びました。

②を話題にした発表者はごくわずかです。高校生でも大学生でもよく買い物しますが、ある商品についての専門的な知識をあまり知らないではないでしょうか。「この中国の商品はどうして日本で売れるか」に対しては、まずこの商品の質、デザイン、値段、実用性、長く持たせるかどうかなどの知識と専門用語を身につけなければなりません。出題の時、もっと工夫して、発表者と聞く人の心を引くスピーチテーマを決めたほうがいいのではないのでしょうか。

課題①を選んだ南京外国語学校の発表者は、「上海の観光地」を日本に紹介しました。私は南京に何回もまいって、「中山陵」「夫子廟」などはとても印象的でした。南京で生活している発表者は「南京の観光地」を紹介したらどうかと考えました。できるだけ、自分のよく知っていることを話題にすれば、緊張感なしに、うまく発表できると思います。

この問題点から見れば、日本語教師は、学習者にスピーチの技術を指導するとき、どのようにテーマを選ぶか、どんな内容を展開するかなども、教えなければなりません。

発表者はステージに上がってから、どこに立って来賓、審査委員、聴衆に礼儀正しくお辞儀するか、私は気づきました。正しい外国語教育は、言葉の運用力・きれいな発音・正しい文法・豊かな感情・異国文化理解・自然な動作などからなっていると言えるでしょう。お辞儀のマナーをちゃんと学習者に身につけさせるべきだと、私はしみじみ思います。

18日の夜、夕食の時、審査委員を務めたわたしは、中国の若い日本語学習者に日本体験のチャンスを与え、中日両国の友好を深めるために努力してきた共立国際交流奨学財団に心から感謝の言葉を述べました。

2009年10月19日 上海にて

#### ◆ 皮 細 庚（上海外国語大学日本文化経済学院教授）



今年で私は三回目に、共立国際交流奨学財団と上海市甘泉外国語中学校の共催による「日本語体験コンテスト in 上海」の審査委員を務めさせていただき、たいへん光栄に存じます。と同時に、今年もまた高いレベルのコンテストとなり、この大会の円満なご成功を心よりお喜び申し上げます。

今年は往年よりさらに広い地域から高校と大学の選手を招き、中国でもっとも大型の高校大学共同参加のコンテストとなりました。このことでまずは、主催者側が中国の日本語教育に寄せるお志を膚で感じ、長年日本語教育に携わる私は、主催者に対する尊敬と感謝の念を禁じえません。

選手が多くなり、実力も一段と高くなるために、今年のコンテストはこれまで以上に激しい試合になりました。ただしやはり、なんとなく高校生のほうがもっとも実力をフルに発揮させ、大学生にも勝るぐらいのスピーチを披露してくれたように感じます。日本語教育のますますの発展と頼もしい未来を思えば、本当に喜びにたえません。

また、今年のスピーチのテーマは、中国または上海の観光・お土産・外国人に教える中国語または上海語、といったようなもので、とてもおもしろいスピーチ大会になりました。ちょうど来年は上海万博が開かれる年で、出題者のご好意が感じられます。

最後に、あらためてコンテスト主催の共立国際交流奨学財団と上海市甘泉外国語中学校の方々に心より感謝申し上げ、このコンテストの今後の一層の拡大と発展、ひいては中国における日本語教育の更なる発展を心からお祈りいたします。

上海外国語大学教授 皮 細 庚

#### ◆ 劉 江 園（上海市教育委員会国際交流課課長）



「日本語体験コンテスト in 上海」は、上海市及び周辺地域の大学生・高校生を対象にし、10あまりの大学から参加した80近くの大学生、そして職業学校、江蘇、浙江地区の外国語学校の高校生など約80名の学生が参加した。財団法人共立国際交流奨学財団が主催し、会場提供などは上海市甘泉外国語中学校が引き受け、現在勉強している日本語を実際に使う機会を設け、語学能力を高めるのと同時に、日中の文化交流を促進し「国際理解」の意識などを高めるなど、十分に積極的な意義があったと言える。日ごろの学習の成果を発表し学生相互、日本人との理解を深める機会になっています。

回を重ねるごとに、会場に足を運んでくださる方がふえ、今年は200名近くの方が、熱心に耳をかたむけていらっしゃいました。スピーチも無事終わり、ひとりひとりに講評とあたたかい励ましの言葉をいただき、日本語の勉強に熱が入

ることでしょう。「みなさん、これから日本語の勉強を楽しんでください」と、伝えたいでした。

出場者全員が立派な日本語で、しかも感動的な内容を伝えてくれた。指導された先生方も大変いい教育をなさったと思う。日本語教育に長く携わった人間として大変うれしい。話題が自分の経験、特に自分の国際交流の経験のように、身をもって感じたことであり、決して借り物ではなく、自分で考えたことである点が素晴らしい。また、自分を偽ってかっこよく見せるのではなく、苦労や疑問を率直に表現する正直さに感心した。全体に発想が斬新で若者らしくて気持ちがよかった。

日本と中国両国の関係機関の協力の下、「日本語体験コンテスト in 上海」が成功に実施され、スピーチを通じた学生たちの国際交流の輪が大きく広がっていくことを祈念しまして私の挨拶と致します。ありがとうございました。

上海市教育委員会 劉 江園

2009 年 10 月 31 日